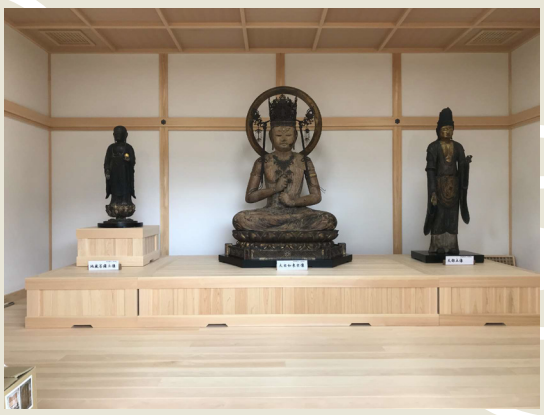
十市町の文化遺産を巡り歴史、文化を感じながらウォークし、秋の収穫体験を楽しむ一日。

正覚寺



本堂には、ご本尊の阿弥陀如来坐像や大威徳明王駒牛像、役行者像、弘法大師像など、大小諸々の仏様が安置されています。また、新収蔵庫には修理修復作業を終え、奈良国立博物館において長年展示されていた平安時代作の大日如来坐像と天部立立像、地蔵菩薩立像が安置されています。中でも、大日様は十市御縣座神社の神宮寺大日堂のご本尊でありましたが神仏分離の折に本寺に移ってこられました。
これらの仏様たちは、正覚寺創建当時より、幾多の時代を乗り越え、今日に至るまで大切に守り継がれてきました。

だんじり祭り

明治初期の頃からの伝統ある「十市御縣座神社の秋祭り」には、五穀豊穣や無病息災を祈って、垣内ごとに大切に保存されてきた７台のだんじりが、列をなし十市御縣座神社までの約２キロの道のりを威勢の良いお囃子や曳き歌のかけ声に合わせ、３時間かけ曳行し、奉納されます。

十市御縣座神社

創建年代は、不詳でありますが、清和天皇貞観元年、従五位上の神位を授けられており、大和国六御縣座神社の一座として朝廷より尊敬され、崇められていました。また、この地方は朝廷の御料地であり、その守護神として蔬菜の生育を祈願しました。そして、庶民からも農業の神として広く信仰をあつめていました。

境内に建立された十市遠忠の歌碑

十市城跡

この遺跡は、中世大和における典型的な平城で、十市氏が鎌倉時代後半から江戸時代にかけて居城しました。城は、十市町旧集落北部の一辺約７０ｍ四方の微高地があり、これを中心部分（主郭）として広がっていたと思われます。その規模は、微高地の周りに遺存する「唐堀・古市場・大門・的場・下殿口・中殿内」などの小字名や地割などから東西約５５０ｍ・南北約４３０ｍと推定できます。

垣内だんじり

７台のだんじりは、江戸末期から明治にかけて製作され、各垣内で、大切にされてきました。
だんじりは、垣内ごとで形態が異なり堺型、住吉型、舟型などがあります。また、腰回り、見送りなどの彫り物には、人物、動物、霊獣などがあり、戦記物語などの名場面が彫刻されています。

①南垣内

②市場東

③市場西

④上ヶ田南

⑤上ヶ田北

⑥北の辻

⑦中殿